



子どもは町の宝

戸谷 ひとみ 議員

一般 質問

令和3年度 9月定例会

災害復旧の 環境整備を

高橋 英次 議員



Q工事現場兼務制限の緩和を

公共工事においては、現場代理人の常駐、請負額による制限などがあるが、災害現場の早期復旧においては、現場兼務制限の緩和を行うべきだ。
また妥当な件数はいくらか。

A現場代理人の制限はない

町長塚原隆昭
請負額3500万円未満の工事については制限していない、それ以上は専任だ。
件数については、県や建設業協会と協議し検討する。協会からは3500万円以上の工事については5件程度との要望がある。

Q町内事業所の残土処理場は限界では

災害復旧工事における建設発生土は、水分含量、土質によって再利用できないものが多く、町内事業所の残土処理場での処理となるが、すでに処理能力の限界ではないかと思われるが認識は。

A残土処理調整会議で確保を検討

町長塚原隆昭
建設業協会からも聴いており、各事業所とも限界になりつつあると認識している。現在は、町として共同で利用できる残土処理場はない。
今回の災害応急の残土は、以前の下来島地内の最終処分場を利用し応急的に

対応している。
他には、国土交通省の出雲河川事務所から、志津見ダム周辺の用地2ヶ所の土地を仮置き場として許可を得ている。雲南市掛合に民間の残土処理場が整備されるが有料である。
県との残土処理調整会議があるので、県・建設業協会と連携し残土処理場の確保を検討するが、運搬距離、処分料を考えると、現場付近での処理が望ましい。田んぼのかさ上げ案もあり、比較して安価なら有効に考えたい。



防犯カメラ

Q防犯カメラの設置は

通学路や公園における児童・子どもの安全確保と見守り、地域の防犯への貢献のため、防犯カメラの設置を提案する。
町長の公約、「安心安全なまちづくり」にもなるのではないか。

A寄贈分で増設

町長塚原隆昭
防犯カメラの有効性は認識している。
町が管理する14台の防犯カメラを設置しているが、すべてが寄贈されたもので、今年はJA共済連からの3台を予定している。
設置費用・管理費・更新などがあり、まとめた増設は難しい。寄贈を頼りの設置になるが、少しずつ増設したい。

Q子ども広場の方向は

子ども広場(児童遊園)の整備を早急に検討し進めたいとの発言があった。
あらゆる年代の人が利用できる場所(公園)であって欲しいと思うが、町長の考えは。

A子育て世代を支援する公園の整備を

町長塚原隆昭
3歳未満の子どもでも遊べる遊具があり、ベンチや東屋もあれば保護者が交流でき、年配の方も一緒に過ごせる。また、来島交流センターにあるような室内用の遊び道具も必要に応じて整備していく。
子育て世代にアンケートを行い、意見交換の場も設定する。できる限りニーズに応えたい。

Q子ども未来推進室今後の展開は

出合いの創出や子育て世代が安心して産み育てられる環境づくりと、幼児教育を強く推進するということ、今後の展開に注目している。

A情報集約し発信

町長塚原隆昭
本年度内に誰でも見やすく、欲しい情報が探せるようなホームページの内容にリニューアルする。職員のスキルアップも考え、研修等も行いながら情報の発信力を強化したい。
子どもや子育て世代向けの情報は「子ども未来推進室」でできる限り集約し発信するよう取り組んでいく。

Q放課後子ども教室の求人

放課後児童の安心な活動拠点(居場所)を提供している「放課後子ども教室」では、スタッフの確保に苦労していると聞く。どのような対策を考えているか。



放課後子ども教室

A勤務形態などを検討

教育長大谷哲也
昨年度以降、スタッフ募集に応じた3名が職場体験をされたが「想像以上に子どもたちの動きについていくことが大変である」などの理由で辞退された。
人材確保支援センターへの相談状況を聞くと「夕方からの変則勤務に対応することが難しい」といった声もあるようだ。応募者が少なく人材確保に苦慮している。

例えば、午前中は給食センターで、夕方から子ども教室で、結果的に1日の雇用という勤務形態もある。
興味がある人は気軽に職場体験をしていただきたい。

この他に、放課後等デイサービスと若者のたまり場づくりについても質問があった。